

令和4年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価（3月9日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方法等
1 教育課程 学習指導	<p>①新たな教育課程を着実に実施するとともに検証を行い、令和4年度からの教育課程を編成、実施する。</p> <p>②生徒の学習意欲を喚起し、基礎学力を確実に定着させるとともに、思考力・判断力・表現力を育成する。</p>	<p>①新たな教育課程での指導と評価の在り方を研究し、学校としての標準化を図る。</p> <p>②一人一台端末を活用した教材の在り方や、授業の展開方法などを研究し、共有する。</p> <p>③放課後や長期休業中の補習や講習の講座を実施するとともに、教科会や教員研修を行う。</p>	<p>①各教科・科目において、学習指導要領に基づいた指導と評価の計画を作成し、寒川高校としての標準的方策を共有する。</p> <p>②ICTの特性を活かした教材を研究し、生徒からのアンケートなどをもとに改善を行う。</p> <p>③各学年で、生徒のニーズに応じた講座等を実施するとともに、教員研修講座を開催する。アンケートを実施し、教員の意識の変化を調べる。</p>	<p>①各教科・科目で、標準的な方策が作成・共有できたか。</p> <p>②教材の研究結果や、改善点などの情報を共有できたか。</p> <p>③生徒のニーズに応じた講座等を実施できたか。また、教員研修を通じて、生徒に還元できる教材等を開発できたか。意識の向上が見られたか。</p>	<p>①令和4年度の指導と評価の計画について、4月からの実施内容と学習指導要領に基づき、各教科で作成した。また、令和5年度の指導と評価の計画について、学習指導要領に基づき、各教科で作成した。</p> <p>②各教科での授業実践や授業研究を行った。また、11月に実施した研究授業の成果を職員間で共有し、来年度の授業計画に活用できるようにした。生徒による授業アンケートなどをもとにさらに授業改善ができるように、各教科で研究を行った。</p> <p>③夏季休業中に12講座を設定し、11講座を開講した。55名の生徒が参加した。また、教員に対しICT活用の研修会を実施した。ICT活用に関するアンケートを行った結果、ICT活用についての意欲が高まったことが分かった。</p>	<p>①指導と評価の一体化を着実に進め、寒川高校としての方策を定着させていく必要がある。</p> <p>②確かな学力育成推進校として、ICTを活用した授業展開の研究をさらに進める必要がある。</p> <p>③生徒のニーズを見極め、講座を設定し、多くの生徒の参加を目指す。また、教員の研修テーマもニーズを見極め実施する必要がある。</p>	<p>②義務教育の定着が不十分な生徒に対して、ICTを活用した予習・復習ができることと良い。予復習には動画の活用が有効。家庭学習においては授業とうまくリンクさせ、量をこなすことが大切である。</p>	<p>①令和4年度の指導と評価の計画について、各教科で作成し共有できた。また、令和5年度の指導と評価の計画についても、各教科で作成できた。</p> <p>②生徒による授業評価をもとに、日常の授業実践において研究を重ね、改善に努めた。公開研究授業を通し、教員相互の知見を深めた。</p> <p>③夏季休業中に生徒のニーズに応じた講座を開講できた。また、ICT活用に関する職員研修を実施できた。</p>	<p>①指導と評価の一体化を着実に進め、実践、検証を通して、必要に応じた改善を図っていく。</p> <p>②ICTを活用した授業展開については今後も研究を重ねていく。</p> <p>③生徒のニーズに即した講座を設定し、学力の定着を図っていく。また、教員の研修テーマについても検討していく。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①基本的な生活習慣を確立させ、規範意識を醸成するとともに、安心して学校生活を送れるように生徒の心のサポートを行う。</p> <p>②部活動への加入率を高め、学校全体を活性化するとともに、地域社会に貢献できる人間力を育む。</p>	<p>①社会の一員である高校生としてのマナーの定着を図るとともに、生徒の実情を把握し組織的支援体制をさらに強化する。</p> <p>②部活動への加入を促進するために、新入生歓迎会を開く。また、部活動の環境を充実させるため、活動に必要な環境を整備する。</p>	<p>①「生徒支援の指針」について全教職員で共通認識を図り、SSE（ソーシャル・スキル・エデュケーション）の取り組みや交流当番、下校指導などを通じて、個別理解を推進し、問題行動の未然防止を図る。</p> <p>②新入生歓迎会において生徒代表から各部の魅力発信させ、部活動体験会では新入生全員に2つ以上の部活動を体験させ、部活動への加入を促進する。</p> <p>③部活動の予算を最大限に生かし、環境を充実させる。</p>	<p>①生徒の問題行動の発生件数を減少させることができたか。</p> <p>②新入生の部活動加入率40%以上かつ、退部率を10%以内に抑えられたか。</p> <p>③3つ以上の部活動で県大会出場以上の実績を残せたか。</p>	<p>①問題行動を減少させることができた。1月までで60件。（昨年度は96件）</p> <p>②新入生歓迎会と部活動体験会を実施し、部活動への加入促進を図った。1月25日現在、新入生の部活動加入率は34.5%であった。また、退部率は7.2%であった。</p> <p>③1月25日現在、卓球部、陸上部が県大会に出場した。</p>	<p>①今後も、生徒支援の指針を全教職員で共通認識し、SSEを活用して、生徒と積極的にコミュニケーションをとりながら、下校指導や交流当番などを行い、問題行動の未然防止を図る。</p> <p>②新入生の部活動加入率が目標を達成できなかった。来年度は部活動体験の時間を延長して、部活動への加入を促進する予定である。</p> <p>③県大会への出場は2部活と目標を達成できなかった。来年度は耐震工事が終わり、グラウンドの使用面積が拡大するのに備え、環境整備に努める予定である。</p>	<p>①生徒の問題行動が増えている中、下校指導などの先生方の対応がしっかりとされている。件数だけで見るのではなく、全体で対応をしていくことが理想。また、家庭との連携をしっかりと取り、生徒の実情を理解していくことが大切。</p> <p>②学校が安全安心快適な場所であるためには、規律が必要になってくる。</p> <p>③部活動も校庭で活発に行われており、外部での活躍も見られる。生徒が主体的に部活動に参加をしていくことが大切。結果だけでなく、その過程を大切にする。</p>	<p>①下校指導や交流当番をはじめとしたきめ細かな生徒指導、SSE等の取組により問題行動の未然防止を図り、指導件数を減らすことができた。</p> <p>②新入生の部活動加入率40%以上は達成できなかったが、退部率を10%以内に抑えることができた。</p> <p>③3つ以上の部活動で県大会出場以上の実績は残せなかったが、演劇部の南小学校での防犯教室、高文連連盟賞受賞などの実績を残すことができた。</p>	<p>①全職員で共通認識を持ちながら組織的に指導、支援を行うことにより、生徒支援体制を強化していく。</p> <p>②部活動体験と合わせて、ホームページやTwitterを通して学校の日常生活や部活動などの活動状況の発信を継続していく。</p> <p>③生徒の主体的な活動を支え、部活動の活性化を図っていく。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価(3月9日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方法等
3	進路指導・支援	生徒に自己の在り方生き方を考えさせ、望ましい勤労観や職業観と主体的に進路を選択する能力を育成して、進路実現につなげる。	①生徒の希望や状況を把握し、個々の適性に合った進路実現ができるよう細やかな進路指導・進路支援を実践する。  ②キャリア教育に係る外部の資源を有効に活用し、生徒の進路意識の向上を図る。未来の社会を強く生き抜く力を育み、目標を持って進路実現できる生徒を育成する。	①校内の支援担当及び校外の支援機関と連携し、進路指導に関わる支援体制の構築・強化を図る。  ②地元企業等と連携した本校独自のインターンシップをはじめとする体験活動や職場見学等を実施することで、生徒の職業観を育成するとともに、進路意識の向上を図る。	①進路未決定率を10%以内に収めるとともに、適切な支援体制のもと、進路支援を行うことができたか。(昨年度9.9%)  ②生徒の多様な進路のニーズを踏まえ、本校独自のインターンシップ等の体験活動を企画する。コロナ禍以前の実績を回復することができたか。(令和元年度協力事業所数：16)	①1月31日現在卒業予定者224名のうち、進路未決定者は30名(13%)。の中には現在進路活動に取り組んでいる生徒もいる。  ②夏季休業期間を中心に、地区インターンシップ4名、寒川高校インターンシップ15名、仕事の学び場1名、延べ20名の生徒がキャリア体験活動に参加した。昨年度編集した「寒川高校進路ノート」の活用や、「地元企業高校内企業説明会の実施」の他、サポートステーションとの情報交換会を開催するなど、キャリア教育に係る外部資源との連携を推進した。(進路ノート協力34事業所、地元企業説明会協力11事業所(予定))。	①進路指導を進めるうえで、支援が必要な生徒が少なからず在籍している。生徒の特性に応じた進路支援、支援機関との連携を今後も進めていく必要がある。  ②新型コロナウイルス感染防止対策を講じつつ、キャリア体験活動を再開した。次年度も状況を踏まえ実施を計画する。また商工会等の外部機関と連携し、より有益な枠組みの構築を目指す。	①進路多様校においては、体験学習を増やすとともに、目標をどこに置くかを検討していく必要がある。  ②インターンシップなどの体験活動を増やしていき、会社と生徒のミスマッチが減らせると良い。	①3月14日時点での進路未決定率は9.0%となることができた。3学年職員とも連携をとり適切に進路支援を行うことができた。  ②新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、多様な進路のニーズを踏まえ、本校独自のインターンシップ等の体験活動を実施した。地元企業やサポートステーション等との連携を図った。	①引き続き、生徒の特性に応じたきめ細かな進路支援を行うとともに、支援機関との連携を図っていく。  ②次年度も状況を踏まえながら、学校外での体験活動を計画していく。また、外部機関との連携を一層図り、進路実現を支援していく。
4	地域等との協働	寒川町唯一の高等学校として、寒川町や近隣地域、小中学校の期待に応え、地域に親しまれ、地域とともにある学校づくりを進める。	①寒川高校の情報を中学生や保護者、地域に積極的に広報するとともに、町や地域のイベントへの生徒の参加や近隣の小中学校との交流を推進する。  ②広域避難場所として地域との連携を図り、町の防災対策、減災対策の一翼を担う。	①ホームページや学校案内の内容を充実させるとともに、ツイッターを活用し、迅速な情報発信を行う。 ①町や地域と情報交換しながら、生徒の地域との交流やイベント参加の機会を増やす。  ②寒川町防災担当部署及び近隣自治会と連携方法を再構築する。	①ホームページの更新やツイッターでの情報発信を、適切かつ速やかに行なったか。 ①町や地域のイベントへの参加や近隣の小中学校との交流の機会が増えたか。  ②町や地域の防災訓練に参加し、町の防災対策に協力できたか。	①ホームページや行事等の様子を伝えるツイッターでの情報は、ほぼ実施の翌日に発信することができた。 ①コロナ禍の中、徐々にではあるが地域のイベント等に参加することができた。具体的には、地域の田植えボランティアや小学校での演劇部による防犯教室、野球部による野球教室を行い、交流を図った。 ②コロナ禍のため、町や地域の防災訓練が中止になり、協力ができなかった。	①今後は、新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、感染対策を講じ、どのような活動ができるかが課題と考える。学校運営協議会の地域連携部会と連携しながら、地域との交流を進めていく必要がある。  ②寒川町及び地域と連携をとりつつ、広域避難所として協力体制を築いていく必要がある。	①来年度は、より活発に学校行事が行われることを期待する。 ①写真部生徒に寒川町の宣材写真をとってもらい、広報誌の表紙等に使用して広報活動ができれば、生徒のやる気にもつながる。  ②田端、大曲との防災訓練は今年度は実施できなかったが、来年度は実施したい。	①ホームページやツイッターでの情報発信を迅速かつ適切に行い情報発信に努めた。 ①ボランティアや部活動で地域のイベント等に参加し、交流を図ることができた。  ②防災訓練への参加は新型コロナの影響で中止となったが、来年度はぜひ参加をしていきたい。	①今後も情報発信を適宜行うなど広報活動を推進していく。 ①学校運営協議会における地域連携部会の活性化を図り、生徒の学校外での活動を増やしていく。  ②防災訓練に参加し、寒川町や自治会との協力体制を築いていく。
5	学校管理 学校運営	職員全体が学校運営上の課題を共有し、安全・安心な学校づくりに邁進するとともに、事故・不祥事防止の徹底を、より一層推進する。	①風通しのよい職場環境づくりに取り組むとともに、働き方改革を推進し、不祥事をゼロにする。  ②校舎耐震工事において、安全確保と教育環境の整備を図る。	①日常的な会話や協働の中で情報を共有し、コミュニケーションを取りやすい職場づくりに努めるとともに、職員全体の協力体制により、勤務時間の縮減を図る。 ①事故・不祥事防止研修会を効果的に実施し、職員の意識を高める。 ②仮設校舎から南棟へ、東棟から仮設校舎への2回の移転に備え、生徒の動線の安全確保に必要な環境整備計画を立てる。	①職員間の情報共有や校内研修が適切に行われ、事故・不祥事はゼロとなったか。  ②夏季・冬季休業中、安全を確保した移転を実践するとともに、環境整備計画を実践できたか。	①職員間の情報共有を進めるため、各グループ・学年の会議等を綿密に行い、朝の打合せや職員会議において、検討事項を報告することで情報共有が図られた。また、状況に応じて臨時の打ち合わせを持つこともあった。 ①事故・不祥事防止研修会を定期的に行うことで、事故防止に努め職員の意識高揚を図った。 ②耐震工事に伴う仮校舎から南棟への移転をスムーズに進められた。また、東棟から仮校舎への移転もスムーズに進めることができた。	①職員間の連携を深め、それぞれの個性を互いに理解しあい、風通しのよい働きやすい職場をつくる。 ①引き続き事故防止に努め職員の意識高揚を図っていく。  ②新年度が改修工事の最終年度になる本校舎東棟への移転にむけ、安全確保に必要な環境整備の計画を立て、スムーズに行うようにする。	①学校という場所は、安全安心そして快適な場所であることが理想である。	①職員間の情報共有や緊急時の協力体制は築いているが、勤務時間超過となる職員も多く、業務の負担軽減に課題が残る。 ①職員間の情報共有や不祥事防止に係る点検資料の提示、グループワークによる校内研修を実施できたが、成績処理においてミスがあった。 ②耐震工事に伴う引越作業を円滑に行った。	①業務負担に偏りが生じないよう可能な限り校内人事の調整を行っていく。 ①ミスが起きた原因をもとに、再発防止に努めていく。  ②来年度予定されている仮設校舎から東棟への引越作業が円滑に行えるよう計画を立てる。